

2. アーカイブ資料活用の取組み

Efforts for effective use of the Civil-Engineering-archives (Drawing and Historical Documents)

技術支援課 技術情報担当 課長代理 築取 優丞 土木技術専門員 宍戸 薫

1.はじめに

土木技術支援・人材育成センターでは、技術の継承とこれまで各部所で蓄積されてきた各種技術資料を効率的に活用し、事業執行に役立てることを目的として、土木技術情報ライブラリーを運営している。

土木技術情報ライブラリーでは、局内で保管・保存してある貴重な設計原図などの土木史料や昭和の初め頃の道路、橋梁、公園、河川の写真・映像など（以下、アーカイブと称する）を収集・電子化し、体系的・時系列的に整理・分類し掲載している。

局内職員は、職員のパソコンからライブラリーにアクセスし、アーカイブを業務の執行に活用することが可能となっている一方で、都民等一般の方に向けては当センターのホームページ内「歴史資料館」にてアーカイブの一部を紹介している他、問い合わせに応じて資料の提供を行っている状況であった。

そのような状況を受け、電子アーカイブの提供だけではなく、設計原図などの史料や解説をつけて製作した展示パネル他、現物を直接ご覧頂ける機会を拡げるなど、より有効にアーカイブを活用し、積極的な情報発信を行っていく取組みを展開している。以下で、それら取組について紹介する。

2. 「東京 橋と土木展」

「東京 橋と土木展」は、橋を主軸としたテーマを設定し、テーマに関連する図面や写真、模型などを展示して、都民に向けて土木の魅力や建設局事業のPRを行うものである。

一方で、公益社団法人土木学会（土木の日実行委員会）は、11月18日の「土木の日」にちなみ、学会が

保有するアーカイブを公開する「土木コレクション」を主催している。

土木の魅力、土木の範囲の広さや奥深さを伝え、日本の将来を支える社会基盤に関して共通の夢を持つことを目指すという趣旨も、都の展示と共通するものであることから、平成24年度から両展示を同時の開催として、毎年11月下旬（四日間又は五日間）に新宿駅西口広場イベントコーナーで行っている。



写真-1 東京 橋と土木展



写真-2 清洲橋の模型

平成 29 年度は「隅田川の橋」にスポットをあて、センターが保管する貴重な図面や写真のほか、「勝鬨橋」「永代橋」「清洲橋」3 橋の模型を展示した。さらには、昭和女子大学田村准教授の協力を得て展示した、新宿駅の複雑な通路・地下道を忠実に再現した「新宿駅立体模型」が人気を集め、5 日間の開催で 4 万 8 千人が来場するイベントとなった。



写真- 3 新宿駅立体模型

3. 「建設局アーカイブ展 in 首都大学東京みやこ祭」

首都大学東京の学園祭「みやこ祭」（平成 29 年は 11 月 2 日から 4 日までの 3 日間）に出張し「建設局アーカイブ展 in 首都大学東京みやこ祭」を開催した。

理工系の在学生による各種発表・展示が行われる「テクノスクエア (TECHNO SQUARE)」の企画の一つとして参加し、隅田川の「勝鬨橋」「永代橋」「清洲橋」3 橋をテーマとした展示を行った。大正から昭和初期の技術や、それを支えた技術者達を紹介し、それらの橋が 80~90 年経過した現在も都市基盤を支え続けていることを伝える内容で、学生やその家族などの来場者に対して、理系の中でとりわけ土木分野の PR に繋がる発信の機会となった。



写真- 4 アーカイブ展 in 首都大学東京みやこ祭



写真- 5 アーカイブ展 in 首都大学東京みやこ祭

4. 「センターアーカイブ展」

センター所有のアーカイブを一般の都民に直接公開する機会は、前述の「橋と土木展」「アーカイブ展 in 首都大学東京」のほかは、センター公開日（年 2 回、二日間）、「くらしと地図・測量展」（6 月の三日間）など、限定的な日のみであったため、執務室を改修して常設公開の「センターアーカイブ展」を平成 30 年 5 月にオープンした。

東京都土木技術支援・人材育成センター アーカイブ展

東京 土木遺産の橋

～ 東秋留橋・奥多摩橋・聖橋ほか

- ・パネル展示：土木遺産の橋
- ・原図展示：聖橋・勝鬨橋
- ・映像放映（勝鬨橋ほか）

2018年 5/16 (水) ～ 10/31 (木)

開館時間 10:00～16:00 (土日・祝日を除く月～金曜)

会 場 東京都土木技術支援・人材育成センター (入場無料)

◆開催詳細は建設局ホームページを参照下さい。

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/jigyo/tech/start/index.html>

図- 1 センターアーカイブ展案内



写真- 6 センターアーカイブ展

第一弾は『土木遺産の橋』の展示テーマで、国の重要文化財指定の「勝鬨橋」「永代橋」「清洲橋」、土

木学会の選奨文化遺産の「東秋留橋」「奥多摩橋」「聖橋」「閘門橋」の建設局管理7橋についての解説パネルの展示、勝鬨橋等の映像の放映、設計原図の展示を行っている。50㎡程度の無人の展示スペースで、開庁日の10時から16時まで入場無料・入退室自由で開放している。局ホームページやSNSでお知らせし、近隣以外の遠方からも来場を頂いている。一定期間で展示テーマを入れ替えながら年間を通して公開を続けていく予定である。

5. 「橋カード」

センターが所有するアーカイブ写真を使用して「橋カード」を作成した。カードの表面は、昭和初期の建設当初や架け替え前の旧橋の姿など歴史を感じさせる写真を掲載し、裏面には橋のプロフィール、解説を記載している。隅田川に架かる橋に始まり、荒川、その他に区部・多摩地域の土木遺産とされる橋など、現在21種を作成している。

前述の首都大学東京やセンターのアーカイブ展などで、それぞれの展示テーマに関連する橋3種のカードを来場の記念として配布し、老若男女に問わず受け取った方から好評の声も頂いている。今後開催する行事等で各種カードを配布し、局の管理するインフラの魅力発信と局事業のPRに「橋カード」を活用して行く予定である。



写真-7 橋カード

6. 「個人参加型インフラツアー」

インフラ自体の魅力やその整備効果などを情報発信する目的で、インフラツーリズムと称されるインフラを観光資源として案内するツアーが全国各所で企画されている。今回実施するツアー「隅田川インフラ巡り」は、ガイド人は付けず、参加者個人に思い思いのペー

スで散策してもらうという企画で、平成30年3月30日(金)、31日(土)、4月7日(土)の3日間で実施した。

隅田川沿いの「新大橋」を起点として「勝鬨橋」までの約4.6kmの間にある橋や水門を巡るコースで、ホームページに掲載したルート図と各インフラの説明書を元に巡ってもらい、途中の2箇所のチェックポイント(新大橋と亀島川水門)で撮影した写真を、ゴール地点とした「かちどき橋の資料館」で係員に提示するというルールとした。参加者にはコースで巡った橋と水門の12カ所のカードをセットにして配布し、局が管理するインフラのPRを行うことができた。

隅田川の桜の時期に合わせてインフラ散策を楽しめる企画として考えたが、さらに参加者に喜んで頂けるツアー企画として第2弾、3弾の実施を検討している。



写真-8 橋カード各種



写真-9 インフラ巡りマップ・ガイド解説(例)

7.おわりに

センターではアーカイブを貴重な史料として単に保管・保存するだけでなく、有効に活用するためのアーカイブの公開や情報発信を行う取組を進めている。

アーカイブを通じてインフラに対する関心を寄せてもらい、インフラの存在意義をあらためて認識しても

らうことが、建設局事業に対する理解を深め、インフラを守っていくことに繋がるものと考えている。

今後も都民に対しては、アーカイブを直接目にしてもらう機会を増やし、さらに興味関心の種となるアイテム「橋カード」も活用しながら、継続的な情報発信を行っていくことを考えている。